日本書紀傳 廿二ノ巻 八上

七十三

和書
一〇五二二號

内一〇六八三號

内閣文庫			
番號	和	10522	
冊數	156(82)		
函號	特	85	1

国立公文書館
National Archives of Japan

教部省文庫印
圖書局文庫
內閣文庫
内 一二六八三號

在ノ坐す意美豆努命即素戔嗚尊ヲ渡らせ給へる御事とおむ曉る可りける

於是素戔嗚尊白日神日吾所以更昇來者衆神處我以根國今當就去若不與姉相見終不能忍離故實以清心

復上來耳今則奉覲已訖當
隨衆神之意自此永歸根國
矣請姉照臨天國自可平安
且吾以清心所生兒等亦奉
於姉已而復還降焉廢渠槽

此云秘波鵝都捶籤此云久
斯社志興台産靈此云許語
等武須毗太諄辭此云(布)斗能
理斗轠轤然此云乎謀苦留
留爾瓊響瑲瑲此云乎奴儺

莠母由羅爾

此ハ上ニ是後素戔嗚尊曰諸神逐我我今當永去如何不與我姉相見而擅自徑去歟廼復扇天扇國上詣于天時天鈿女見之而告言於月神也より兼て直に於是素戔嗚尊白月神曰吾所以更昇来者衆神處我以根國今當就去云云と續く可き文ある事已に條々に委しく論ひつるが如し備此ハ掛まくも甚も可畏き天津日継の天地と共に無窮き基本の定まりし御在し坐ける所にて甚もて止事無き件に在を古来敢て力

を用ひて其御旨を窺め盡したる説の聞えざるから始終を一に貫ぬき知れる人無きなむ遺憾しき事なるかける共にハ先此文の錯を正して知べき事ころ多かりけれ上三百十三丁に註るが如く右に天鈿女見之而告言於月神也とハ素戔嗚尊の天を翕も國を翕もして上天に参升らせ御在し坐けるを彼磐戸閉の御事より延て久方の天津朝廷の威儀も何も形の如く已に足具へりしかバ縦や素戔嗚尊の今度ハ清明き御心の御在し坐すとも容易く御許近く参到らせ給ふ事の出来べきにあらむ非りけるを實に清明き御心

を衆神に明らめさせ御在し坐て稍進ミ給へりけむ
を皇太神の御前に侍らひ給へる天鈿女命より奏聞
え奉らせ給ふ可くこめれバ此に於て皇太神の勅許し
詔給ひけむらし素戔嗚尊を召て覲え奉らしめ奉ら
れし是なり　然れバ此次に日神曰吾弟所以上来非復好意必欲奪我之国者歟吾雖婦女何當避乎乃躬装武備云々と有ハ此ハ相應はざる文あり其ハ初度に参昇り御在し坐ける時の事の錯れて此に入たる者なる事已に註るが如し若て此次に五男三女神を生奉らせ給へりし御事の載れるハ全く瑞珠盟約章より来れる文なる事云も更なり　故此素戔嗚尊の實に清心を以
て如此く参上らせ御在し坐ける御事ハ大に所以御
在し坐る者となむ想像り奉らるゝ事なりける其ハ
上二百四十四丁に註るが如く此より以前に已に此顕國に
天降り御在し坐し着て諸国を往巡らせ給ひ其御子
五十猛神を帥て大八島の國内盡く青山と成し給ハ
ざる所無き迄美好しく物為させ御在し坐けるを其
も吾皇御孫尊の御為に勞づかせ給へる御政なる事
を聞え上させ給ひがてら参向はせ御在し坐けるに
なむ有ける已にも註る事なるが四神出生章に既而
伊弉諾尊伊弉冊尊共議曰吾已生大八洲国及山川草
木何不生天下之主者歟於是共生日神中略次生素戔嗚
尊下略と有が如く二柱御祖神の国土萬生物を生成し給

ひ畢て其國土萬物に主者と御在し坐す大神を生奉らせ給ハむと所思し入らせさせ御在し坐て先生成し給ひける御眞名子ハ此子光華明彩照徹於六合之内故二神喜曰吾息雖多未有若此靈異之兒不宜久留此國自當早送于天而授以天上之事是時天地相去未遠故以天柱擧於天上也と有て如此く天地に照徹らせ御在し坐す御徳の眞盛に御在し坐に就てハ此天下の主者と御在し坐べき質性に渡らせ給ハざるを以て天上に送擧げ奉らせ給ひけるまて日神是なり故此御事依しの御事を古事記にハ此時伊弉諾尊大

歡喜詔吾者生生子而於生終得三貴子即其御頸珠之玉緒母由良迩取由良迦志而賜天照大御神而詔之汝命者所知高天原矣事依而賜也故其御頸珠名謂御倉板擧之神と有て先にハ何不生天下之主者歟と共に詔給ひて其御心にて生奉らせ給ひしかども案外に靈異之兒と詔給ふ許に貴き高き御子に御在し坐せバ天上に送擧げ奉らせ給ふ可きハ自然の御勢とハ申奉りあぐる實にハ皇祖天神の謂ゆる預鎔造天地と有る御靈威になむ依れりける備傳五三十一丁に註るが如く伊弉諾伊弉冉二神ハ此天下國土を建させ給

ふ可き御為に皇祖天神の御許より天降し給へる神なり然るに其高天原をしも己尊の御物として御心の任意に事依し授奉らせ給へるハ如何なる由ぞと此世の始に彼謂ゆる一物なむ天中に成出たりけるを其物に就て成坐る神に埿土煑尊沙土煑尊と申す神ハ即二柱御祖神の其時の御名に御在し坐せバ其物中より葦牙の如くして萠騰りて天上ハしも初て成れる者にし有ければ其天上も二柱御祖神の御國とも謂つ可き者なり此を以て天照大神に高天原を所知看せしらハ神随にして事依し奉らせ給ふ可き御事になむ御在し坐ける(此二柱御祖神ハしも右の如く天上の初にも係列ハせ給ふ可き所以有が故に然る御事依しの御事ハ御在し坐けるなり然らずハ如何なる大御光華の明彩しく御在し坐たりとて天上を所知看し坐らめ奉らせ給ふ可き御計らひまでにハ御力なむ及バせ給ふまじかりける所ある者をや)斷りければ其何不生天下之主者欤と詔給ひて生奉らせ給へりける天照大神ハしも高天原を所知看させ御在し坐す御事と成れる上ハ主張(ウケバリ)て天下の主者と坐も大神ハ唯素戔嗚尊のみなむ御在し坐を此を以て其弟六ノ一書に素戔嗚尊者可以治天下也と詔給へる御事依しの御事ハ御在し坐けるなり然りと雖も其素戔嗚尊の御上に取てハ其御事依

しハ受賜はらせ給ひつるも猶御心に落居させ給ふ
所なむ御在し坐ざりけらし此天下を治給はむ者と
ハ所思し係させ給はざりけると所見て正書に此神
有勇悍以安忍且常以哭泣爲行故令國内人民多以夭
折復使青山變枯故其父母二神勅素戔鳴尊汝甚無道
不可以君臨宇宙固當遠適之於根國矣遂逐之と有が
如く殊に取立て悪しき御行を求めて物為させ給へ
るにハ非る可けれども神性の雄健さに任せて萬に
打振まはせ給へるが故に已ゝ御父母二神も此神ハ
宇内に君と坐べらしず根國に出立せ御在し坐べき

由をバ詔給ひて即其御心を懲し進らせらる可き此
又止事無き勢に依らせ給へる者なりけり斯るに〔其〕第
二一書に此神の後に次生火神軻遇突智時伊弉冊尊
為軻遇突智所焦而終矣と有る此終矣ハ第三ノ一書に
神退(カムサリマシヌ)矣亦云神避(カムサカリマシヌ)矣と有が如くして遠く根國底國に
行坐し御事なるが此に依て愈ゝ益ゝ其御母神を戀
奉らせ給ひけり其第六ノ一書に是時素戔鳴尊年已長
矣復生八握髯〔鬚〕雖然不治天下常以啼泣恚恨故伊弉諾
尊問之曰汝何故恒啼如此耶對曰吾欲從母於根國只
為泣耳伊弉諾尊悪之曰可以任情行矣乃逐之と有る

是なり此文より兼て瑞珠盟約章ニ於是素戔嗚尊請
曰吾今奉教将就根国故欲暫向高天原與姉相見而後
永退矣勅許之乃昇詣之於天也と所見たる此時ハ伊
弉冉大神ハ已に根国に罷去て御在し坐ざる程の御
事なりければ御父伊弉諾大神に聞え上させ給へる
にて彼第六ノ一書なる御事を兼賜ハくせ御在し坐て
其御畏まりの御事を此に申奉らせ給ひ且ハ其御辞
見に日神の御許に天上に参上らせ御在し坐む其御
勅許を此に請奉らせ給へるになむ有ける于先にハ右の四神出生の
章に所見さる事ハ伊弉諾大神一柱にて物為させ給
へりし御政に在を故其父母二神と有ハ誤なる可く

思ひて強に心を用ひざりしところ中々なる麁き事に
りければ已に知此御事依しの御在し坐ける上にて此
天下を所知看すに御心御在し坐ずハ根国に罷坐べ
き由を詔言なせ給に可き御事にて其ハ二柱御祖神
共に係列ハせ給に可き本より然る理なる者ぞろし
然るに其逐れて出坐べき素戔嗚尊ハ出坐ずして却
りて其御母神の先に已に入坐りしかバ頻りに戀奉
らせ給ふ御心なむ弥勝らせ御在し坐ければ弥此
天下を所知看むなどしハ所思し係させ給ハざりけ
る者なりけり古事記にも右の第六ノ一書と同じく故
各隨依賜之命所知看之中速須佐之男命不知所命之
國而八拳須至于心前啼伊佐知伎其泣状者青山如枯
山泣枯河海者悉泣乾是以悪神之音如狭蝿皆満万物
之妖悉發故伊(弉)邪那岐大御神詔速須佐之男命何由
以汝不治所事依之国而哭伊佐知流尓答白僕者欲罷
妣国根之堅洲國故哭尓伊邪那岐大御神大忿怒詔然
者汝不可住此国乃神夜良比尓
夜良比賜也と所見たる是なり然れハ素戔嗚尊ハし
も其始二柱御祖神等に神逐ハれ奉らせ給ひてより

根國に罷坐むと思ほし入らせ給へるを其後に伊奘
冊大神彼國に神避り出坐しゝかバ愈以て其慕奉らせ
給ふ御心なむ弥勝らせ給へりけむを其（追ヽ幸行せりし）伊奘諾
大神ハしも彼國より歸らせ御在し坐て第六ノ一書に
伊奘諾尊既還乃追悔之曰吾前到於不須也凶目汚穢
之處故當滌去吾身之濁穢則往至筑紫日向橘之檍原
而祓除焉と有が如く此より以前に伊奘冊尊と已に
別處を建て住別れさせ御在し坐ゝけれバ彼國の事
を忌避させ給ふ御心御在し坐なるに素戔嗚尊ハし
も其御心をも何も跛らせ給ハずして一向に御母神

の御許に至らせ御在し坐む事を申給へるが故に終
に其請しの任に治めさせ給ひけり此に於て皇祖天
神より二柱御祖神に有豊葦原千五百秋瑞穂之地宜
汝往脩之と有る事も徒事と成り又彼何不生天下之
主者欤と詔給へりし御心も果し給ハずして此天下
國土ハ殆に主無き地と己に成れるが如くなむ有け
る此に至りて皇祖天神の彼預鎔造天地と云に御功
なむ此に顕ハれけらし素戔嗚尊に其根國に罷坐む
と所思看す御心にハ引替らせ御在し坐て高天原に
参向りせ御在し坐て日神に覲奉らせ給ハむとの御

心出させ御在して御父大神に請奉らせ給へバ勅
許と詔給ひける即伊弉諾大神に其始何不生天下
之主者欤と詔給へりし御事を所思し出させ御在し
坐て高天原に参向へらバ日神の御方に治めさせ給
はむ道てう御在し坐べかりけれとて瑞珠盟約章に
素戔嗚尊将昇天時有一神号羽明玉此神奉迎而進以
瑞八坂瓊之曲玉故素戔嗚尊持其瓊玉而到之於天上
也と有が如く羽明玉神をして其昇天の御表物をさ
へに授與へさせ給へるなむ決めて幽深き由縁有る
御事に御在し坐べかりける若て此瓊玉を天照太神

に奉らせ給ひ又天照太神の御劔を賜はりて其に御
誓の御事御在し坐て其御劔にハ五男神成出させ御
在し坐し瓊玉にハ三女神成出させ御在し坐して此
に於て彼何不生天下之主者欤と詔て生奉らせ給へ
りし天照太神と素戔嗚尊と二大神の珍御子を以て
天津日継と定奉らせ給へりける此頃ほひなむ伊弉
諾尊ハ上天に復命させ給へりけらし其正書に是後
伊弉諾尊神功既畢霊運當遷是以構幽宮於淡路之洲
寂然長隱者矣亦曰伊弉諾尊功既至矣徳亦大矣於是
登天報命仍留宅於日之少宮矣と所見たる是なり其

神功既畢と云ハ皇祖天神より御事依しの御事共を落も無く御心足ひに治給へるを云なり天下を主無き國にして功既至矣徳亦大矣とハ如何でかハ云む此ハ心を深めて思ふ可き御事なる者ぞかし右文に是後と有ハ其次なる素戔嗚尊の参上りせ給へる所の文に始素戔嗚尊昇天之時と有る始字に對へて云るなり此を以て此登天報命の御事ハ其よりハ後にて有る事を知べく又四神出生章第十一ノ一書に素戔嗚尊の亦御名月(讀覺)尊と申す方まで保食神の許に葦原中国に至らせ給へりし御時にハ已に此国土にハ御在し坐ざりし趣なるに思合せて其登天報命の御事ハ其中間にて彼五男三女神の生坐る即の御事なるを思合す可くぞ若て此に天照太神と素戔嗚尊と二柱神む有ける

右に謂ゆる五男三女神を成し奉りせ給へる上にての御政ハ瑞珠盟約章に是時天照太神勅曰原其物根則八坂瓊之五百箇御統者是吾物也故彼五男神悉是吾兒乃取而子養焉又勅曰其十握劔者是素戔嗚尊物也故此三女神(者)悉是尓兒便授之素戔嗚尊此則筑紫胸肩君等所祭神是也と所見たる此にハ傳十五百九十五丁又三百三十丁に註るが如く實にハ其第二ノ一書に所見たる天照太神の御物ハ御劔なり素戔嗚尊の御物ハ瓊玉なるを傳の混れ有て此も古事記も相共に其事返様にハ有れども其物根を以て生坐る御子を正させ御在し坐けむハ信に然も御在りし坐つ可き御事なり

其事古事記に八於是天照大御神告速須佐之男命是後所生五柱男子者物實因我物所成故自吾子也先所生之三柱女子者物実因汝物所成故乃汝子也如此詔別也と所見て此に(ハ)其詔(與)物實を以て別させ給へる即皇太子と成奉らせ給へる謂にて第三一書に日神云々乃立誓約曰汝若不有奸賊之心者汝所生子必男矣如生男者予以為子而令治天原也と其始に先契約り置せさせ御在し坐て其後に其素戔嗚尊所生之兒皆已男矣故日神方知素戔嗚尊元有赤心便云々為日神之子使治天原と所見たる令治天原とハ傳十八 四十八丁 に註るか

如く掛まくも甚も可畏き天津日継を定奉らせ給へる始に先天原にて其大御政を行ひ初させ御在し坐て此顕国に天降し奉らせ給ひ(此)御事を先物為させ給ふとして此より四神出生章第十一一書に既而天照太神在於天上曰聞葦原中国有保食神宜尓月夜見尊就候之云々と有は其天津日継の御為に万千秋の長五百秋の瑞穂を顕見蒼生の食て活べき物に事始め定めさせ給へるにあむ御在し坐ける備其第六一書に素戔嗚尊者可以治天下也と事依し給へる此顕国の事を然計り天照太神の功しヽ物為させ給へ

るハ如何なりける所以有ての御事なりむと云に已
に此の神の御生坐る初に彼二柱御祖神の何不レ生ニ天
下之主者一欤と詔給ひて生成し奉らせ給ふが故に高
天原を所知看す皇太神にハ渡らせ給へれども又此
顕国をも兼て持たせ御在し坐す適ろへぬ御事共に
む御在し坐る故なりける 其ハ天孫降臨章第一ノ一書に天照太神勅ニ皇孫ニ曰葦原千五百秋之瑞穂国是吾子孫可レ王之地也云々と詔給へる大御命ハ更なり古事記にも天照太御神之命以豊葦原千秋長五百秋之水穂国者我御子正勝吾勝勝速日天忍穂耳命之所知国言因賜而天降也と有ふど是を以て皇太神にも御国なる事を暁る可し 若て天照太神の其保食神を
見せに天降し遣ハし給へるハ全く其天津日継の御

為に食物着物住宅の事を起して世に幸給ハむと所
思し看て物為させ給へるなり然るに素戔嗚尊ハし
も天下を所知看さむ御心御在し坐ざりければ其保
食神の不禮き状を怒らせ御在し坐て此に事有しろ
ども天照太神ハ于時天照太神喜之曰是物者則顕見
蒼生可ニ食而活一之也と詔給へる如き大御心に御在し
坐けるが故に時天照太神怒甚之曰汝是悪神不レ預ニ相
見一乃與ニ月夜見尊一一日一夜隔離而住と有が如く其御
前を退けさせ給へる程の御事なりければ此に於て
謂ゆる天津罪の御事を犯させ給ひけり此に因て天

照太神天石窟に入坐し磐戸を閉て刺隱らせ御在し坐しければ天地の内に在と有ゆる八百萬千萬神等此に神集ひに集給ひて日神を祈禱奉給ひけるに思兼神の御卜慮に相叶ひて終に日神ハしも出させ御在し坐しければ高天原も天下も悉く照明りける所由に縁て又其天地の内に有ゆる諸神ハしも一神を漏さず天照坐皇太神に仕奉れる御事に成て其大御稜威なむ愈勝りに勝らせ御在し坐て天津朝廷の御威儀此に至りて成整ひ具足ひ天地の共易る可らぬ常典此時にこそハ立定れりけれ是を以て其仕奉れる状に依て天兒屋命太玉命ハしも左右の大臣の如く天鈿女命ハ内侍の如く櫛磐間戸命豊磐間戸命ハしも衛門兵衛の如くして仕奉られ又諸部神ハ各其職掌有て各自に仕奉られし御有状なるハ其功を称賛給へる大御政の始なり又此に相反りて此時の甚しき罪犯の本ハ素戔嗚尊一神に御在し坐り此を以て罪過を其神に帰て千座置戸の解除を徴り給へるなむ此即其罪を罰めて物を贖ふ事の起なりける掛まくも可畏き皇御孫尊の大朝廷の大御政ハしも全く此天照国の日宮の大御風儀を模し行ハせ

給へる者よあらむ有ける古語拾遺御天降段よ天照太神高皇産霊尊乃相語曰云々
汝天兒屋命太玉命云々惟尓二神共侍殿内能為防護
云々冝下太玉命率諸部神供奉其職如天上儀仍令諸神
亦與陪従と有る即天上の風儀を此顕国よ
摸し傳へさせ給へる御事を徴すよ足れり備素戔鳴
尊ハしも其天津罪犯の御事ょ依て既而諸神嘖素戔
鳴尊曰汝所行甚無頼故不可住於天上(也)亦不可居於
葦原中國乃共逐降去と上文ょ出たり其より此国土
よ天降り御在し着せさせ給ひて後の御所行と申さ
ハ其天津罪の御過失を補ふハせ御在し坐て其食物
着物住宅の御備を御心の遺る所無く物為させ給ひ
て先よ天照太神と御誓の御問よ成し奉らせ給へる

珍御子皇御孫尊を以て（天津の継と）天照太神の天降し奉らせ給
へらむ其御時を下待せ給ふ御意味ある御言ふむ所
見たりける下章弟五ノ一書よ素戔鳴尊曰韓郷之島是
有金銀若使吾兒所御之国不有浮寶者未是佳也と詔
給へる此御一言よて其大神の実よ清く麗美しき御
心の御程ふむ仰ぎ奉るみも猶余り有まで所見させ
給へりける其程の清く麗美しき御行の御有状ハし
も上二百九十丁よ已ょ顕ハし奉れるが如く高天原より
天降らせ給へる後よ其御子五十猛神を帥て大八洲
國内盡青山と成し給ひ青垣山瑞々しく作成し給ひ

ける後よ再上天よ参昇らせ御在し坐けるハ全く彼
天照大神の物根を以て詔別させ給へりし大御命を
彼荒魂の進りらふ御在し坐ける程の御事ふりしら
バ背らせ給ふとハ無く又背びひも為させ奉らせ給
ハざりけるを今ハ其畏てまりの御言を聞え上奉ら
せ給ひ又其男御子を天神御子として奉らせ給ふふ
就てハ又其女御子を素戔嗚尊の御女として授給へ
りけるよて前章第一二書よ乃以日神所生三女神令
降於筑紫洲因教之曰汝三神宜降居道中奉助天孫而
為天孫所祭也と見え又其第三一書ふ即以日神所生

三女神使降居于葦原中國之宇佐島矣今在海北道
中號曰道主貴此筑紫水沼君等祭神是也と所見たる
即此時の御所置ふる事其正書よ又勅曰其ゑし者是
素戔嗚尊物也故此三女神悉是尓兒便授之素戔嗚尊
此則筑紫君等所祭神是也と有る此授とゑふ御言ハ
此時ふふずして何れの時らハ御在し坐む但其詔別の御時ふ
ハ未携へさせ給ふ可きふ非ず次よ諸神ふ逐ハれて
天降り御在し坐そ御時よら如何でかハ此三女神を
帥て降り給ハむ又其若て此よ素戔嗚尊の且吾以清
義を思ふ可き者ふり
心所生兒等亦奉於姉と申奉らせ給へるハ已よ御文
母二神より素戔嗚尊者可以治天下也と事依されさ

せ給へりし此国土をしも天照太神に奉らせ給ふとにて即天照太神の御計らひとして其天神御子に事依し授奉らせ給はむ御事を奏させ給へるにて此に其根国に罷向はし給ふ辞見の御事を申させ給へるには（其心摘し給ふ根）其國に御在し坐ては御母伊弉冊大神と共に此國土を有たせ給はむ又月國に入御在し坐ては其夜之食国より国土を天照し給はむと申奉らせ給へるにて此に於て天照太神と月夜見尊（素戔嗚）と二神にして月神月神として國土を相保らせ給ふ御事の定りて天壌と共に無窮き皇基を建させ給へる（ふり）みして是ぞ天照

太神素戔嗚尊二大神の大御正統を以て食國天下を所知看す御政の初なるによて彼二柱御祖神の始に何不生天下之主者欤と詔言給へりし御事の結には有ける即是顕宗天皇御紀に謂ゆる有預鎔造天地之功と有る皇祖天神の天津神事の副加はれるに依れる者なり 然れバ此素戔嗚大神の始より此天下を所知食を御心御在し坐ず有しも今如此事の相照應ひて結バるゝ上ハ其然る所以の事の運ひも備ふむ知らる可らしめる 〇於是素戔嗚尊白日神曰とは上 三百九十四丁 に註るが如く右に天鈿女見之而告言於日神也と有より直に此に續く所なるが天鈿女命のは其来意を質問して日神に申奉れるに

△下に故実以清心復上来耳と有に並びて此ハ

り此ハ其天鈿女より奏し聞えて後に御勅許の御事
御在し坐て其日神の大御前に進みて直ちに其消息
を具さに申述させ給へる所なり○更昇来ハ△上
に廼復翕天翕国上詣于天と有り又吾弟所以上来非
復好意とも又吾若懐不善而復上来者と有る復に同
しくして其事を再度物為る謂なる者なり其例ハ八
洲起元章第一ノ一書に故還復上詣於天云々宜更還去
云々故二神改復巡柱云々と有て復と更とを並べ云
ひ又古事記にも尓天神之命以布斗麻迩尓卜相而詔
之因女先言而不良(亦)亦還降改言故尓反降更往廻其

天之御柱如先と有て此にも亦と更とを相對へたり
又既生国竟更生神と有も已に其事を成し畢て殊に
改めて物為させ給へる由を更とハ書なせられたる
者なめり余ハ此に准らへ知べきなり万葉四五十八丁に
打乍二段更毛不得言五三十一丁に事了還日者又更大御
神等船舳尓御手打掛豆八三十二丁に更哉秋乎欲見世武
又四十一丁又更而雲句田菜引十二十七丁に吾八更ニ戀尓
相尓家留十一七丁に石上振神杉神成戀我更為鴨又十三
丁更哉妹尓吾戀将居又四十七丁梓弓弓束巻易中見者更
雖引君之随意十四七丁に多麻河泊尓左良須氐豆久利

ムと見え十九巻十五丁に喧鳥乃音毛更布ム

佐良こゝ尓奈仁曽許能兒乃已許太可奈之伎又古今
集大歌所御歌に美作や久米の佐良山更〻にな我名ハ
立じ万代までにとなど有り 又万葉八巻三十三丁に真玉手乃玉手指更など有て更
を易と訓り此又易り改むる事を佐良尓と云字を用
ひたるなり 其外猶更に又更にと云など皆此に同じ
○處我以根國の處字ハ新宮本に遂に作れり其遂ハ
逐字を誤れるにて此の處ハ其逐字を誤れるにハ非
るか上に既而諸神嘖素戔嗚尊曰汝所行甚無頼故不
可住於天上亦不可居於葦原中國宜急適於底根之國
乃共逐降去と有り次に衆神曰汝是躬行濁悪而見逐
謫者如何乞宿於我遂同距之と有り次に是後素戔嗚

尊曰諸神逐我我今當永去と詔給へる御言有を今又
此に於て天照太神に其来意を述させ給ふ所なれバ
善本にハ衆神逐我以根國と有けむとおもひ所思れし
き事なりける 本に處字を於久と訓たれども上に照す可き文有れバ相叶ハざるなり名義抄に處字袁理とも韋流とも登杼麻流とも於久とも須都とも登許呂とも夜年とも登杼年とも許登和流とも夜須年とも志流須とも訓れバ此字にてハ當らず ○今當就去ハ上に我今
當永去の所に云り上二十九丁見る可し○若不與卿相
見ハ上に如何不與我卿相見而欖自徑去歟と詔給へる
が如く衆神に逐ハれ奉られませ給へれども皇太神
に相見え奉らせ給ハずして欖に私にハ出立し御在

し坐し難を由を申奉らせ給へるにて其初度より御
父大神の勅許を蒙賜らりて参向ハし給へりし主意
を直に奏し聞えさせ給へるなりけり上三百三丁にも云
る事あるが其初瑞珠盟約章に御父大神に申させ給
へる御言に吾今奉教将就根国故欲暫向高天原与姊
相見而後永退矣と有ハ古事記よも然者請天照太御
神将羅と所見たるが如くにて御父大神の御勅許ハ
受奉らせ給ひつゝも猶天照太神の御勅許をも受奉
り且ハ其辞見の御事をも聞え上奉らせ給ハむと所
思して天上にハ参向ハし給ひけれども其状の甚厳

めしかりし事より起りて皇太神の御方に御疑の御
心出来させ給へりしかバ其に御誓の御事に及バせ
給ひ何彼の事共に障られさせ御在し坐て其初より
思ふし立し給へりし御心の本意遂させ御在し坐ざ
りつるを今ゑむ眞に正に相見え奉らせ給へるに就
てハ本より清明き御心以て御在し坐ける御事を直
に聞え上給へる所なりける如此皇太神の御許近く
侍らハせさせ給ひて其申上させ給ふ御言を聞食す
に就ても其心して見る可き所多かる可し 其ハ右に翕天翕国
上請于天と有ハ神性の雄健く御在し坐をに依れく
バ此ハ今云限に非るを次に吾弟所以上来非復好意

△此言瑞珠盟約章に如不與妳相見吾何能敢忿と有る其何能敢の意に其義等し偖忍ノ字ハ

必欲奪我之國云々などの如きハ先度の御事なるを
此に混ひ入れるが故に然る似着ハしらざる事り
加ハりん
る者なり○不能忍離故ハ延佐加理奉流尓志奴毘邪
礼許曽と訓べし舊訓非なり離と訓む事ハ傳十一百九十七
〔を佐加理
丁十三 三十二丁にいへり
〔口訣に不能忍離者不堪離之謂也と有が如くにて
忍ハ物に堪る事をいふなり△海宮遊
行章に請曰妾産時幸勿以着之天孫猶不能忍竊往覘
之と見え古事記同段に然後者雖恨其伺狀不忍戀心
と有り又其玉垣宮段に於是天皇詔雖怨其兄猶不得
忍愛其后故云々とも所見たり万葉二十八丁に戀乎大
尓忍金手武手和郎波乃如三五十七丁離家伊麻須吾妹乎
停不得山隠都礼情神毛奈思と云歌に並びて世間之

常如此耳跡可都知跡痛情者不忍都毛六二十三丁に九有
者左毛右毛將為子恐跡振痛袖乎忍而有香聞十一二十
一丁に石根踏夜道不行念跡妹依者忍金津毛又二十六丁劔
刀身尓佩副流大夫也戀云物乎忍金手武十二十六丁に
梓弓引而不縱大夫也戀云物乎忍不得牟と有ハ何れ
も堪忍び難き事を難忍（シヌヒカネ）つといふなり此も素戔嗚尊の
直にハ離放にて出坐に得堪忍ばせ給ハずして參向
ひ御在し坐し事の由を聞え上させ給へるになむ有
ける然るに此忍離の二字を志乃毘和加礼麻都流又
ハ志乃比波奈礼麻都流事と訓れたるハ唯其字
に就たる訓にて妥しからざるなり此ハ漢文に不忍
見又ハ不忍食と云る忍にて物に堪忍ぶ事なれども

右の訓の状よてハ隠忍の方の言と成るなり其隠忍
と云も物を堪忍ぶより然顕ハに物為ざる意と成れ
るなれバ其本ハ等しき物から其用ある末に至てハ各別なり○實以清心ハ瑞珠盟約
章に素戔嗚尊對曰吾元無黒心云々請與姉共誓夫誓
約之中必當生子如吾所生是女者則可以為有濁心若
是男者則可以為有清心と其初に申させ給へるが如
く其神ハしも（唯）神性の雄健く御在し坐けるのミところ
有けれ素より（露計も）濁心の御在し坐さりければ已に其清
明き御心の顕はれさせ給ひて實に先に言擧為させ
給へるが如く男御子を成し出させ給ふ此を以て御
自も清心とハ御名乗為させ給ふ可きに在けり其弟

○故素戔嗚尊既得勝驗

一書に云於是日神方知素戔嗚尊固無悪意と有ハ清
心有りて所知看ける趣なり第三一書に其素戔嗚尊
所生之兒皆既男矣故日神方知素戔嗚尊元有赤心と
有ハ即悪心無しと所思看しと由りて共に同意の事
なりけり然るを此より後に一時天津罪の御事ところ
ハ御在し坐たりけれ已に解除の御事御在し坐す上
ハ申すも無く清心に御在し坐が故に皇太神の御
方にても其を疑はせ給はずして其御許近く召させ
給へりける者なり　但此一書にハ瑞珠盟約章の文混
ひ入て其より一聯の如く續けて
文を成されたる者なるが故に上文に於是素戔嗚尊
誓之曰吾若懷不善而復上来者云々　如有清心者云々

と有より照應せたる文〇後上来耳ハ上の故字を許
の如く見るハ誤なり
曽と訓るに對へて復昇理来都礼と訓べし右に於是
素戔嗚尊白日神曰吾所以更昇来者と有る結めなり
〇奉觀ハ瑞珠盟約章に相見を相麻美延奉理氏と有
に從ひて麻美延麻都流事と古くより訓るに從ふ可
し其事件ハ傳十五丁十四にあり〇已訖ハ唯其事の終
りたるをのミ云にハ非ず瑞珠盟約章に神功既畢と
有も神功を盡し究めさせ給へる義なり然れバ此に
奉觀已訖と有ハ唯一時相見え奉らせ給ひて退らせ
御在し坐けるが如くなれども然らず此ハ素戔嗚尊

本より清心を以て参上らせ給ひ天照太神も實に其
神の赤心に御在し坐す御事を飽まで所知看させ御
在し坐る御事にてハ有り且ハ其御同胞の御事に御
在し坐せバ善ハしく御言語の御事などの御在し坐
べからむ事ハ申すも更なり殊に此次に且吾以清心
所生兒等亦奉於姉と申させ給へるを思へバ其高天
原にて此天津日継の御事なとを神議に量らせ給へ
るなど去敢させ給はざりける御政なむ御在し坐べ
かりければ其天上に留まらせ給へる御程良暫く有
し御事なるらハ御在し坐つ可き者なりけらし唯其
御前

へ出させ御在し坐て直に退らせ給へる事を已訖と
ハ如何ハ云(申給ハ)む今應に罷向ハせ給ふとしてこそ然る
御言擧をも為させ給ふ可き御事なりけれ○隨衆神之意とハ右に衆神處
我以根国と申させ給へるが如く衆神の所置に従ハ
せ給ひて露も違背らせ給ふ可き御意御在し坐ざる
なり其ハ此正書に然後諸神歸罪過於素戔嗚尊而科
之以千座置戸遂促徵矣云々已而竟逐降焉と見え又
第二ノ一書に已而科罪於素戔嗚尊而責其祓具云々用
此解除竟遂以神逐之理逐之と見え此よりも既而諸神
嘖素戔嗚尊曰汝所行甚無頼故不可住天上亦不可(住)
居於葦原中国宜急適於底根之国乃共逐降去とも有

が如くして如此く諸神に逐やれさせ給ふと雖も其
御身自罪を犯し給へるに服従ハせ御在し坐て御名
に負せる建連〔速〕と申奉る神性をも收めて諸神の所置
に任せさせ御在し坐て辛苦なませ御在し坐けるに
ど本より清心の御在し坐ける御有状なむ此に顕ハ
れさせ御在し坐ける但其ハ天上にて罪なハれさ
せ給へる御事なれバ殊更なる事として此國土にて
も于時霖也素戔嗚尊結束青草以為笠蓑而乞宿於衆
神衆神曰汝是躬行濁悪而見逐謫者如何乞宿於我遂
同距之と有ハ僅に國神の防ぎ距られしにて此大神

の御稜威を振はし給へらむには如何なる神なりと
も得しも距奉る可らざるを此は辛苦なく給ふ可
き所なり時なり又其身に當れりとして一方に背かせ
御在し坐ざるにて其清明き御心なむ天地の内に満
塞りて御在し坐てける 此時に己尊に御心に思え させ給ふ所に感け御在し
坐て後に大国主神を其分にてなむ治めさせ給へり
ける古事記に所見たるが如く己に其御子大国主神
を殺さむとして迫窘め 衆神之意とは上 五十六丁 與台産霊
させ給へるをも思べし
神の傳に云るが如く靈と云は其神の全体を云るに
て廣きを心と云時は其指を方有て狭きを謂なりけれ
バ神の靈威を世に幸給ふ中に其一の指を所有て物

為給ふ事を捉へて其を神之心とは云なり此も然り
衆神の心一向にて唯素戔嗚尊を逐奉る外無が故に
衆神之意とは詔給へるなり崇神天皇七年御紀に是
夜夢有一貴人對立殿戸自称大物主神曰天皇勿復為
愁國之不治也是吾意也若以吾兒大田々根子令祭吾
者則立平矣と有は大物主神の凡ての御靈には非ず
其国の治不治の一向を事を以て吾意也と宣へるな
り古事記の其段にも此天皇之御世疫病多起人民死
為盡尓天皇愁歎而坐之神牀之夜大物主大神顯於御夢
曰是者吾之御心と有も其疫病の流行はるゝ一方に

取て我之御心とは申給へるなり又風神祭詞も同じ
御世よ出來れる物なるが百能物知人等乃卜事尓出
年神乃御心者此神止白止負賜支此乎物知人等乃卜
事乎以氐卜止出留神乃御心毋無止白止聞看氐皇御
孫命詔久神等波乎天社国社止忘事無久遺事無久称辞
竟奉止思志行波須誰神曽天下乃公民乃作作物乎不
成傷神等波我御心止曽悟奉止礼宇気比賜支と有も作と
作る物〔を成ざる〕の一向よ依て誰神ぞと尤め給へるなり景行
天皇四十年御紀弟橘媛の言よ今風起浪泌王船欲没
是必海神心也と有も王船欲没と有る其一事を指て
海神心也とは申されしなり仲哀天皇八年御紀よ御
船所以不得進者非臣罪是浦口有男女二神云々必是
神之心欲と有も御船の滞れる一方を以て神之心
とは申せるなり古事記訶志比宮段よ彼征韓の御政
を今如此言教之大神者欲知其御名即答詔是天照太
神之御心者と有も海外を更よ事依し授賜へる一向
よ就て同神の御心とは名乗らせ給へるなり又其神
功皇后御紀よ令諸国集船舶練兵甲時軍卒難集皇后
日必神心焉と有も軍卒の難集き一廉を以て神心と
は畏てませ給へるよなむ有ける右等の例共よ依て

見るに天照太神の日神と御在し坐て天地に照臨し
給へるハ謂ゆる御霊なり然るに彼征韓の御事（の如く）など
に別に一事の出來れるを治給へるを御心とハ申奉
れるなり又大物主神ハ國神を帥て皇基を守給ふ神
に坐り（て其即御霊に）右の如く疫病の事又ハ其祭祀の方の片廉に
就て云時ハ即御心と云者なり人も然る事にて天神
より受奉りて生来れる物をバ霊と云なり又其霊も
其身に受容るゝ時ハ人と我と同じからず各其一箇
の物と成る此を指て心とハ云なり故發語にも御心
廣田国又ハ御心長田国或ハ御心手吉野乃国などゝ

其屈伸なと云ハ本よりして又ハ清心或ハ濁心などゝ其
善悪を云（物）ハ心ハ人面の如くして其人限りに凝固
まれる謂なるを以云なりけり然れバ神の御霊と申
すハ全体の御上を以て申奉りて廣く（ことを）神の御心と申
すハ其守るにも罰むるにも其局る所有が故に其物
其事に（際）限（かりて悉く行亘らざる所）の有て廣からざる者と知べし 古語拾遺にも於是
大地主神令片巫肱巫占求其由御歳神為祟宜献白猪
白馬白鶏以解其怒依教奉謝御歳神答曰實吾意也と
有も御歳神ハ稲穀を守給ふ神に御在し坐なり然る
に其祟を成して稲穀を損ねさせ給へる御所業に就
て其一事を小さく指て吾意とハ宣給へるなり土佐
日記にも不意く風吹て榜げども〳〵後へ退き
に退きて殆しく打没つ可し楫取の云く住吉の明
神ハ例の神ぞかしと云ゝ幣にハ御心の行ねバ御船も

云次章ニ隨勅奉矣と有り傳二十三二十丁ニ云るが如く麻迩々々とハ違ふ事無きを云ふなり

行ぬなり云々或人の詠る道速振る神の心の荒る、海ニ鏡を入れて且見つる哉と有ふども皆上の例なりと心得べし○隨ハ麻迩麻迩と訓べし天孫降臨章ニ請在（延馬有間）（任）意遊之故皇孫就而留住其弟一ノ一書ニ即天鈿女命隨猿田彦神所乞遂以侍送焉其弟四ノ一書ニ因曰隨勅奉矣故天孫留住彼處久海宮遊行章ニ請施恩治於是隨其所乞遂赦之其弟七ノ一書ニ諸鰐魚各隨其長短定其日數と有を始めとして御紀の中ニ猶數多有り古事記ニも故各隨依賜之命所知看之中（云々）とも故隨告而如此設備之時（云々）とも尓其鹽隨乾其身皮悉風見吹拆故ことも故隨詔命而參到須佐之男命者云々とも

此葦原中國者隨天神御子之命献故更且還来問其大國主神汝子等（云々）二神者隨天神（御子）之命勿違白訖故汝心奈何尓答白之僕子等二神隨白僕之不違此葦原中國者隨命既献也とも今平訖葦原中國之白故隨言依賜降坐而知看者云々是以隨白之科詔日子番能迩々藝命此豊葦原水穗國者汝將知國言依賜故隨命以可天降とも有て任をも隨をも隨意をも麻迩麻迩と訓り續紀弟一詔ニ天坐神之依之奉之隨云々欵將仕奉人者其仕奉（禮良年）狀隨品品ニ讃賜上賜云々弟二詔ニ隨令長遠久始今而次次被賜將往物（叙止）弟六詔ニ教賜於夫夫氣

賜荅賜宣賜任尓第十四詔に初賜比定賜流部法隨之〻
隨法天乃嗣高御座乃業者第十六詔よ隨法不治賜第
三十一詔よ教賜乃末仁末仁奉侍止勅第三十二詔に
其仕奉隨狀治賜人毛在第三十五詔よ理波法乃末尓
末尓治賜久倍在第四十二詔に又示顯賜流弊瑞乃末尓末
仁年號波改賜布第四十三詔に由此弖理波法末尓末
尓第四十四詔よ然行事乃重在年人乎波法乃麻尓麻收
給年物止第四十五詔よ心乃麻尓麻世與止命波第四
十七詔よ奏流麻尓麻宣給布止勅久止宣第四十九詔よ法
能麻尓麻尓第五十一詔に（四月累往麻尓麻尓之〻）歲時積往麻尓麻尓之〻第

△二十丁よ梓弓引者
隨意依目友

六十詔よ隨法尓可有波政止志弖なども有て麻迹麻迹とも
麻迹麻迹とも所見たれバ下なる一の迹ハ辭なりと
所見たり（鈴屋大人の詔詞解よ第一詔の隨を此ハ麻尓麻と訓つ下よ尓字無れバなり假字書よ
麻尓麻とも有り然れど又麻尓麻尓とも訓べし」と云れたり）又万葉△三（三十五丁）大王任
乃(任)隨意聞跡之物曾五（四十丁）に可加良受毛可賀利毛
神乃末尓麻仁等四（二十二丁）よ天皇之行幸乃隨意物部乃
八十伴雄與十一（十六丁）よ吾持留心者吉惠君之隨意又
（十九丁）他眼守君之隨尓余共尓夙興乍又（三十一丁）吾身一者
君之隨意又（三十七丁）依友吾者君之任意十三（十九丁）に天皇
之遣之萬萬夷離國治尓登十六（九丁）否藻諾藻隨欲可赦

又十丁丹穂氷周将友之随意十七二十丁に大王能麻氣乃
麻尓未尓出而許之和礼乎於久流登又二十二丁大王能麻
氣能麻尓麻尓大夫能情布里於許之又二十七丁於保吉民
能麻氣乃麻尓麻尓之奈射加流故之乎遠佐米尓十八
二十九丁に未伎太未不官乃未尓未美由伎布流古之尓久
太利又三十丁於保伎見能未伎能未尓未尓等里毛知底
都可布流久尓能十九二十九丁に麻須良乎能比伎能麻尓
麻尓二十十八丁に伊佐美多流多家吉軍卒等祢疑多麻
比麻気乃麻尓麻尓二十三十六丁に大王乃麻氣乃麻尓麻
尓島守尓和我多知久礼婆など有て中には麻迹麻と

云も一所有り又十八二十三丁に於能我於敵流於能我名
負名負大王乃麻気能麻久麻久と有る久を尓の草体
より誤れるなるべしと云説も有れども麻久麻久は任(マケ)
任(マケ)の言にて其本同言なり若て麻迹は傳七十丁に註
るが如く（八洲起元章第一書に）太古此云布刀磨尓と云ふ磨尓と共に一言
にて物に学ぶと云ひ擬(マネ)ると云ふと同じ義の言なる
者なり　若て麻は物の二有る事にて両手を麻氏と云ひ両揖を麻加伊と云る是なり我と彼と相似るを然云言と聞えたり○自此永帰根国矣の帰字を麻加理那牟
登須と訓り備此同言なれば瑞珠盟約章の初に與姉
相見而後永退矣と有は其初なるを以て退字を作れ

又此上に諸神逐我我今當永去如何不與我卿相見而
檍自徑去欲と有ハ其應に去むも為させ給ふ所なる
が故に去字を書れ此にてハ已に其国に入らせませ
御在坐むと為る所なるが故に帰字を書せられた
る者にして皆其心用ひ有る事なるも有けるヿ照臨
天国ハ上に扇天扇国と有ハ動天動地と云事にして
此に對へて照臨天地と云むが如し此天国を阿麻都
久迩と訓来る事なれども（りて天上なりと云）然る可らず阿米久迩と
が訓べかりけらし已に四神出生章第一書に即大
日孁尊云〻是質性明麗故使照臨天地と有に合せて

天地を又天国と云言の有をも知べし記傳三十二に古
書共を見るに凡て阿米に對へてハ必久尓と云て都
知とハ云ず天神地祇天社国社又神名にも天某神国
某神と對ひ天迩岐志国迩岐志天津日高日子番能迩
迩藝命と申も御名又御紀に扇天扇国と云ひ雄略天
皇御紀吉備国尾代が歌にも阿毎你擧曽枳擧曳儒阿
羅毎矩你你播枳擧曳底那と作るなど皆久尓を以て
阿米にハ對へたれバ阿米久尓と云むが古言なめる
可けれバ古書に天地と有をも然訓べきなりと云れ
たる此考をバ捨て被用ざりしかども猶祝詞にも天

能壁立極国能退立限又ハ天津罪国津罪なども有れ（或ハ天翔国翔氏）
バ右の如く廣く阿米都知と云外に狭く阿米久尓と
云事の何どうハ無らざる可き且此大地の全体を葦
原中国と云れバ天に對へてハ国と云べき事にて此
の上よりも諸神嘖素戔嗚尊曰汝所行甚無頼故不可住
於天上亦不可居於葦原中国と見え次に扇天扇国の
事有て此に照臨天国と有ハ全く天地を易て天国と
云るにて天上を指て天津国と云義にてハ非るなり
然れバ此ハ唯に阿米久迩と訓て有ぬ可くこそ　但天上に
ても其天上を限りてハ国と云事の有けるにや瑞珠
盟約章なる日神の御言に謂當有奪国之志と有て其

△古事記に指出彼鏡示奉天照太御神之時天照太御神逾思奇而稍自戸出而臨坐之時と有て下に故天照大御神出坐之時高天原及葦原中国自得照明と有を合せて見れバ日神の臨坐ハ即天地を照明らし給ふ御事なるを思ふ可し

由傳十五巻八十九丁に註るが如し又天孫降臨章に
天国玉神有を古事記に天津国玉神と有り此を以て天上に天津国と云称の有を知べきなり○照臨ハ傳九八丁に註るが如く
四神出生章に日神の御事を此子光華明彩照徹於六
六合之内と有る是なり△崇神天皇四年御紀詔に惟我
皇祖諸天皇等光臨宸極者豈為一身乎と有る光臨も
照臨と同じき物なり其ハ古くも志呂志米須と云訓
有て唯天下を治めさせ給ふ御事なるを此照臨ハ字
の如く天に国に照し臨ませ御在し坐す御事を申奉らせ給へ
るなり備此臨を能叙牟と訓て望字と言を同じくし
又天孫降臨章第一一書に臨睨を保是理氏と訓る此

ハ我が世に土を穿ち又ハ物を穿ち見る事を保是流
といふ其同言なるが此等の類より思ひ耳すに此臨字
に彼欽明天皇の大御名なる天国排開廣庭天皇の排
開くといふ意有るなめり太神宮祈年月次等祭詞に
皇神能見霽志坐四方国者天能壁立極国能退立限青
雲能靄極白雲能墜坐向伏限といひしと所見たる此即照
臨天国といふに當る可き事霽を波流加須といふハ右
の排開に當り其言又保是理といふが如くして天地
を底際の内に照徹らせ御在し坐す御事を申奉れる
になむ有ける 常に臨といふも其時所に至りて覗き見る
意なり又物を希ふ事を望といふも其に

り出て同言なり莅又宮又睎字をも然訓り記傳ハ巻
臨ハ字鏡に闚を宇加ゝ布不又乃曽无と有る如く又
能曽久と同し今思ふにハ能曽年と能曽久とハ意異
なるが如くなれども中務家集に池に能曽伎たる松
に藤懸れりといひ源氏椎本巻にも水に能曽伎たる
廊にといふど有り此等ハ臨を能曽久といひ今ハ能
曽伎坐と有れバ相通ひて ○自可平安ハ自佐伎久座（古きに依て）（麻）
本同言なり」といへれなり（斯麻世）
坐倍志と訓べし備此所纂疏に明文有り照臨天国自
可平安ハ字祝禱之詞進雄尊臨別遺以此語丁寧之意
溢於言外於是見此尊之不實暴悪也（也）又以所生男兒
付囑日神故吾勝尊為日神之所養而後代帝王皆出自
其下何況所寶三種神器以進雄（尊）暴行為之因縁蓋（此）進
尊有大功于吾邦者不可得而称也と有ハ実に目覺る

許り愛たき御説にて臨天国自可平安の八字を祝禱の御詞とハ實に然る事になむ有ける其ハ天孫降臨章に所見たる大己貴神の国避の御詞に天孫若用此矛治国者必當平安と云御言を奉らせ給へるが如く其辭見の御時に及ばせ給ひて壽詞を称申す古の御手振なりしにて已に傳七(巻)八十九丁に言霊の事に就て引る万葉五(巻)三十一丁好去好来歌に神代欲理云傳久良久虚見通倭国者皇神能伊都久志吉國言霊能佐吉播布国等加多利継伊比都賀比計理今世能人母許等期等目前尓見在知在(人)有る如く正しく其證徴有る事(ハ)

即彼天壌無窮の神勅の空しからざる此一事を以ても想像り奉る可き者なりかし又吾勝尊ハ日神にも此素戔嗚尊にも御子に御在し坐せバ世と共に皇御孫尊の大御祖神に渡らせ給ひ又一時御荒びに依て日神ハ天石窟に入らせませ御在し坐けるハ大禍事の極みにハ有しかども又其御時に三種神宝共に成出て天地の共易る可からぬ御璽と成れるなど実に此大神の御功御在し坐を御事なりと云も為難になむ有ける但有大功于吾邦にてハ如何大地万國に亘る御功なる事次章の傳に云る如くなれバ右の御説の

具足のひて愛たき中に此一なむ大ろ宜ひ足ざる心
ち為られけるハや　此に次て大なる御功と申奉るハ
國引の御功ハ申をも更なり御子
神等と共に此顕見蒼生の為に衣食住の事を起させ
給ひ中より御子大国主神ハ国土経営の御功御在し
坐て天下に在ゆる人共の朝夕に御蔭を蒙奉る大神
に御在し坐に根国に御在し坐てハ国土萬物を保有
たせ給ひ月国に坐てハ夜之食国としして平安を通證
国土を照させ御在し坐なとの類是なり
にも引る和名抄御名に淡路国津名郡平安阿恵加と
有ハ源氏　巻などに物の稚弱(ヒヨワ)なる事を阿恵加と
云言有り其と一にて古言とハ聞ゆれども右に引る
天孫降臨章なるも平安を(麻)佐伎久と訓る方なむ愷
に思ゆれバ今も其訓の方を用ふるになむ備麻佐伎
久と云ハ常に佐伎久と云に眞の言の加ハれるなり
備其佐伎久ハ全の義なり古事記佐久夜毘賣命段に
吾妊之子若国神之子者産不幸若天神之御子者幸と
所見たるを此にハ天孫降臨章に若不天孫之胤必當
麤滅如實天孫之胤火不能害と有て麤滅ハ不幸なり不
能害ハ幸なり然るを其第二一書にハ吾所娠是若佗
神之子者必不幸矣是天孫之子者必當全生と有て其
幸に當て全生の言を被用たり又其第五一書にハ妾
所娠若非天神之胤者必亡是若天神之胤者無所害と
有て此にハ亡を不幸に當られたり景行天皇十七年

〇當遺害を麻自許礼那牟と訓る並びて當無恙を佐伎久阿良牟と訓たるを其下に至りて
傳卅二三百四十五丁小注にある故く

御紀大御歌に異能知能。摩曽祁務比呰破と有を古事記同段には倭建命の御歌として伊能知能。麻多祁牟比登波と有に依て其摩曽祁務を摩多祁務の誤なとにやと思ひし事なれども其も此も違へるには非ず摩曽祁務は眞幸祁務の義又麻多祁牟は眞健祁牟の心にして大抵同じ意の言なれば何れを誤なりとも云難し万葉四 三十一丁に吾命之将幸限十二 六丁に信吾命全有目八目と有は麻多久の方なれども佐伎久と云換ふとも其義に於て異ならざるを思ふ可くなむ有ける 故思ふに佐伎久は天孫降臨章第一ノ一書に云故

〇此字前漢書外戚傳に行矣強飯勉之と有を師古注に行矣猶今言好去と云り十一に万葉に好去と佐伎久又麻佐伎久と訓めり
通證に引る

天照大神因勅皇孫曰葦原千五百秋之瑞穂国是吾子孫可王之地也宜爾皇孫就而治焉行矣寶祚之隆當與天壤無窮者矣と所見たる行矣を佐伎久と訓る此字の義にして先往と云むが如くして進む方に滞る所無きを云なり此に並びて全を麻多久と云ふ多久は雄健と云も同義にして物より上に高く立伸る義より起れる言なる者なりけり 然れバ麻多久の麻は麻佐伎久の麻に同じくして其意を強むる為に言の上に眞の言を置る物にし有ければ能其本語を知て味はふ可き事なりし右の行矣は纂疏に送行之詞と有れども其も行く先にて身の全からむ事を祝称へたる者にて其事異なるには非るなり△佐伎久の用例は万葉一 十七丁に樂浪之思

○五三十一丁ニ都ニ美無久佐伎久伊麻志良

○十三卅丁ニ言幸眞福座跡志無福座者荒磯浪有毛見登又志貴嶋倭国者事霊之所佐国叙眞福在與具

賀(之)乃辛崎雖幸有九 九丁ニ白埼者幸在待十三 三丁ニ新
夜乃好在通年又 十七丁 幸有者又反見又天地乎難乞禱幸
有者又反見十五 二十四丁ニ左伎久之毛安流良年共登久
伊低見都追麻都良年毋能乎十七 十五丁ニ久佐麻久良
多妣由久吉美乎佐伎久安礼等二十 二十八丁ニ知麻利為
豆阿例波伊波ゝ年毋呂ゝゝ波佐祁久等麻袁須なと（二十三丁ニ眞幸有者亦還見武 三十三丁ニ吾命之眞幸有者又毛将見又）
有て麻佐伎久ハ其(三) 五十一丁 (ニ)一手者和細布奉平尚幸
座與天地乃神祇乞禱七 十六丁ニ好去而亦還見 六十五
四丁ニ眞幸而伊毛我伊波伴伐於伎都奈美知敝尔多都
等毋佐波里安良米也毋十七 二十一丁ニ麻佐吉久乃伊比

衣之物能乎又 四十四丁 波之家夜之吉美賀多太可乎麻佐
吉久毛安里多毋等保利二十 十八丁ニ麻佐吉久毋波夜
久伊多里豆又 三十三丁 平久和礼波伊波ゝ年好去而早還
来等なと有て眞幸とも眞福とも書き又好去を訓る
ハ上ニ云るが如くして佐伎とハ先ニ前し義なるが
此意をもて壽ぎ（命の全き事を）稱ふる言なる者なり 又五巻三十一丁ニ言霊能佐
吉播布国等七巻四十一丁ニ福何有人香なと有る佐
伎波比ハ行延(サキハフ)て行未まて事の廣ごり延ハる意な
るなども右ニ同じく又十八巻二十二丁ニ大皇乃御
言能左吉乎聞者貴美又大夫能許己呂於毛保由於保
伎美能美許登能佐吉乎聞者多布刀美なと有る佐伎
も亦右ニ同じ猶佐伎の委しき事ハ次章第六ノ一書幸
魂奇魂の下ニ云てむかし ○且吾以清心所生兒等ハ瑞珠盟約章

素戔嗚尊の申給へる御言に請與姉共誓夫誓約之中
必當生子如吾所生是女者則可以為有濁心若是男者
則可以為有清心と申奉らせ給ひけるに的當して其
御言に違はせ給はず其清心の顕はれさせ御在し坐
て五男神を成し出させ給へる是事の詔給へるなり
其委しき状は第三の一書に日神與素戔嗚尊隔天安河
而相對乃立誓約曰汝若不有奸賊之心者汝所生子必
男矣と見え次に日神の御誓の御事御在し坐て其次
に已而素戔嗚尊云々便化生男矣則称之曰正哉吾勝
故因名之曰勝速日天忍穂耳尊云々と有る其正哉吾
勝と言挙し給へるは第二の一書に故素戔嗚尊既得勝
験於是日神方知素戔嗚尊固無悪意と見えたる是な
り又其第三の一書に其素戔嗚尊所生之兒皆已男矣故
日神方知素戔嗚尊元有赤心便取其六男以為日神之
子使治天原と有る是なりにて其清心の御程は申さ
せ給ふ限りに非るを其日神の御方にて日足し奉らせ
給へる男御子を天津日継と定奉りて天降し奉らせ
給はむ事を此に契り聞えさせ給ふ所なるが故に其
清心を以て成し奉らせ給へる由を丁寧に申顕はし
述させ給へる御言になむ御在し坐ける其は已にも

云るが如く此段の古事記に於是天照大御神告速須
佐之男命是後所生五柱男子者物実因汝物所成故自
吾子也先所生之三柱女子者物實因汝物所成故乃汝
子也如此詔別也と有て日神にも素戔嗚尊に亘りて
共に御子には御在し坐せども殊更に其始清心を以
て生奉なせ給へるハ其御子を憐愛しく給ふ御心の
顕はれさせ給へるにて甚尊く辱なき御事になむ御
在し坐ける下章第五ノ一書に素戔嗚尊曰韓郷之嶋〔是〕有
金銀若〔使〕吾兒所御之國不有浮寳者未是佳也と有る此
御一事を以ても此大神の顕國にて立させ御在し坐

ける許多の御功も其天孫の御為に物為させ給へる
御事なるを然る御子生の所由よりして掛まくも甚
も恐こき天照太神と共に皇御孫尊の大御祖神にて
渡らせ給ひ此天下も元来素戔嗚大神の天下なるを
皇御孫尊には天照太神より授傳へさせ給へる者な
れバ世に八百万千万神と多く有れども其天統の御
方に取てハ天照太神に亜て尊き大神なむ此素戔嗚
尊にハ渡らせ給へりける（此ハ已に傳十五巻三百七下に此所の文を引て云る）
事なるが御紀の文ハしも悉く高雅にして常人の能
く解知べき事ならざるが故に此大神の始終の御事
を深く考尋ねず唯彼御荒びの時の一二事を以て此
大神の悪神の如く世に定め云事ハ更なり皇御孫尊

の大御祖神に渡らせ給へるを蔑如し奉れるが心苦
しくて如此なむ諄言へるなりける見む人其心して
味ふ可し○奉於姉ハ其清心を以て生奉らせ給へる男
御子を奉りて天照大神の御命以て天下を授（事依し）給ハむ
御事を悉に其御心に任せ奉らせ給ふとなり己にも
條々にいへるが如く其始二柱御祖神の何不生天下之
主者歟と詔給ひて此天照太神と素戔嗚尊と二神を
生成し奉らせ給へれバ何れに在れ其片方のミにて
天下を所知看す時ハ其御言の幸（を）に違ハせ給ふ可
きを此二神の誓約の御中に生出させ御在し坐ける
男御子を以て天津日継と定奉りて食国天下を所知

し坐しめ奉らせ給ふ可き神随の道を以て天照太神
の御方にて日足し奉らせ給へるを今此所にて素戔
嗚尊より其御事を諾なひ奉らせ給ひて其御子を奉
らせ給ハむと申給へるハ彼四神出生章第六一書に
所見たる（次）素戔嗚尊者可以治天下也と有る其天下を
奉らせ給ふといふ事にて天孫降臨章第一一書に天照
太神勅天稚彦曰豊葦原中国是吾兒可（治）王之国也中略
因勅皇孫曰葦原千五百秋之瑞穂国是吾子孫可王之
地也又古事記にも天照太御神之命以豊葦原之千秋
長五百秋之水穂国者我御子正勝吾勝々速日天忍穂

命之所知国言因賜布天降也と有る御事の因て起る
所以此に在る事なりけり 此事を知ざる時ハ不意く天照大神の御命以て事依
し授け奉らせ給へる御事に成て其然る所以を究む
る事能はざる故に其説浮て聞ゆめり此古より以来
人の難義と為る所なり傳十五巻三百四丁に云るを見る
可し 此吾以清心所生兒等
亦奉於姉の交りに日神の御方よりも三女神を其素
戔嗚尊に授奉らせ給ふ御言なむ御在しつ可き事
なりける 其ハ傳十五三百十三丁に註るが如く瑞珠盟約
章に故此三女神悉是尓兒便授之素戔嗚尊此則筑紫
胸肩君等所祭神是也と有ハ謂ゆる詔別の御詞より
續けりと雖も授之素戔嗚尊とハ全く古此の文に相對

ふ事にて必しも此に在ぬ可き所なりかし 其第一ノ一
書に乃以日神所生三女神令降於筑紫洲因教之曰汝
三神宜降居道中奉助天孫而為天孫所祭也又其第三ノ
一書に即以日神所生三女神者使降居於葦原中国之
宇佐島矣と有ハ其三女神に御命令せ給へるにて素
戔嗚尊への御言にハ御在しませざれども此三女神を
天降し給へるも天孫を助奉らせ給はむ為の御事に
御在しますも由己に傳十六六十五丁に註るが如し 又此文
に對へて素戔嗚大神よりも其天孫を天降して天下
を所知しめし奉らせ給ふ可き御事を皇太神に申

奉らせ給ひけむ御事上に註る趣ある可らずむを思
ふ可き者あり備又傳十五（百八十九丁）上（三百二十六丁）に云るが
如く彼御誓の御事はしも其疑はれ奉れる素戔嗚尊
こゝろは如何ありける御誓をも成し給ひて其清心の
程を明らめ奉給ふ可き御事ありけれ然るに其素戔
嗚尊を疑はせ御在し坐て其可否を今糺さむと為さ
せ給へりし天照太神の先最初に御誓の御事に及ば
せ給へるは皇太神の御心のトにて皇太神の御に女
神（御子）素戔嗚尊の御に男御子を成し給へらむには其素
戔嗚尊に本より清心の御在し坐ける徴として皇太

神の疑思ひしゝ事の否らざる由を明らめさせ給ひ
又此に反りて皇太神に男御子を成し給ひ素戔嗚尊
に女御子を生出させ御在し坐むには猶其神に濁心
坐す信として皇太神の疑ひ御在し坐ける御事の
己る然る由を所知看さむとて共〻に御誓の御事に
及ばせ給へるを皇太神の正に然御在し坐させ将欲
しく所思看すに任に素戔嗚尊の清心の顕られて皇太
神の御手に女御子の成出させ御在し坐つれば此に
於て其男御子を日神の御子として天津日継に成し
奉らせ給へるに合せて此女御子を授させ給へるは

△上三百二十五丁可以降女於葦原中國の下ょみる事共を考合す可し

一ょハ天孫を助奉らせ給ふ御為ふるハ然る物ょて
其皇太神ょ於てに御心の隔てさせ御在し坐ざる事
を明らめさせ給ふとの御事ょて御親睦の御心余り
有まで好ハしき御事とふむ見えらりける是此所の意を補ひ
て見る可き所ふるふり瑞珠盟約章ょ於是素戔嗚尊
請曰吾今奉教将就根國故暫欲向高天原与姉相見而後
永退矣勅許之乃昇詣之於天也と有より始めて此ょ
至りて其結びと成る所ふれバ心して見る可き者ふ
り△〇已而復還降焉と有ハ今度ハ被逐て天降らせ給
ふょてハ無く皇太神の御前ょて其辞見の御事を申
奉らせ給ひ男御子を奉りて天津日継ょ定奉らせ給
ひ女御子を賜りて天孫を奉助らせ給ハむ御事を契

聞えさせ給ひて天降らせ給ふ所ふれバ其御装束供奉の事
ハ更ふり供奉の神ふども有て實ょ厳めしき御事ょ
て御在し坐けむと想像り奉らるゝ御事ふり出雲几
土記意宇郡安来郷郡家東南二十七里一百八十歩神
須佐乃烏命天壁立廻坐之尓時来坐此處而詔吾御心
者安平成詔故云安来也と有が如く天の壁立極く行
廻り御在し坐て此度ハ出雲国安来郷ょ天降らせ御
在し坐けるふり即次章第二ノ一書ょ是時素戔嗚尊下
到於安藝国可愛之川上也と有る是ふり〇廢渠槽此
云秘波鮄郡新宮本ょ波を彼ょ作れり誤ふり〇捶籤

此云二久斯社志ハ纂疏本㮶を挿に作れり〇輿台産霊
此云二許語等武須毗ハ新宮本毗を比に作れり神世七
代章第四ノ一書に皇産霊此云二美武須毗と有れバ比ノ字
なるにハ有べからず〇轆轤然此云二乎謀苦留て尓ノ新
宮本にハ然ノ字の下に乎ノ字有り行なり謀を詐に作れ
るハ誤なり〇瓊響瑲瑲此云二乎奴儺等母母由羅尓新
宮本にハ唯瑲瑲乎と有て瓊響の字無く諸本共に然
り乎ノ字衍なり(又)其ハ本に乎奴儺等母母由羅尓と有
が混ひたるなり又母ノ字一字無し又私記にハ瓊響瑲
瑲と有て奴奈乃毛由良尓師説云作者所誤也と云る

ハ上の本文に瓊響瑲瑲と有て此に唯瑲瑲と有を作
者所誤也と云るなり

右安政四年九月廿二日始焉十月廿五日已至二百五十
五張而其夜有感即時採毫浄書第五卷終十一月十二日卒業
同十五日再始十二月十五日夜成

奉告日本書紀傳寶鏡開始章成由於　皇神等且奉
壽　宗像大神東京小一條亭社成而還座新殿之事
詞
物部乃八十乃心乎天地尓思足波志天地乃底際乃内尓在止
有由流天津神國津社乃皇神等尓睦靈合氐靈相倍婆合奴流任意尓
天進利高久貴伎皇神等乃靈威乎蒙奉利氐朝夕尓起止波寐止波
怠事無久皇大御典乃大御學業尓仕奉良久乎皇神等乃事依
志授賜布來甲我身乃職止嬉志比悦保比部勉米結利氐仕奉利比
業乎以氐掛麻久毛畏伎皇御孫尊乃御楯止為氐仕奉良久止比
比羅木乃八尋桙乎握持氐百千乃他乎毛言舉為受言向和須

可久武久勇美多流氣勢乎筆尓移志弖縱横尓書成志仕奉利初
多留日本書紀傳乃二十二巻止云巻尓値流巻乎此十五日止
云尓事訖弖今将二十三巻止云巻乎書志初仕奉流尓就弖波梓
弓千尋射渡志眞鹿兒矢乎手挾添弖天雲乃退方乃極美白
雲乃向伏須限利皇御孫尊乃大御稜威乎背尓負奉利弖行向
比弖堅伎巖乎毛沫雪那須蹶散良加志弖稜威乃雄詰比踏健比弖四夷八
紘乎毛合世平弖安御世尓仕奉流可伎業止事始米物為流尓皇
神等乃御手打掛弖引寄世給布止加毛此皇大御典乃古傳乃趣
乎彼尓合世此尓校倍弖天尓波毛五百津綱延閇国尓波毛五百津
綱延布事乃如久尓說弘米而結ゝ比八十結ゝ比堅米弖然仕奉

流心緒乎延婆倍申佐久波唯皇神等乃事始定米給倍利志世中乃
大道乎明米奉利弖皇御孫尊乃大朝廷乎天地止日月止共尓
長久遠久平安尓大座坐志米仕奉良牟心一筋奈流耳尓志弖神止皇
止乃御事乃外波思波受仕奉流事尓天神地祇八百万千万神乃
御霊等天翔利國翔利依来坐弖相助給比相幸給布御霊乎
常毛齋奉流我如久齋仕奉礼留中尓殊尓吾我大神宗像乃三女
神波著明伎御息頼乎蒙奉礼留事年尓月尓日毎尓許ゝ多久多
在我随尓共御蔭忘奉自止為弖椙尾大神尓被助延奉弖皇京
下尓大座坐須大神乃御殿乎造成志仕奉牟事乎前内大臣
藤原公尓請弖年頃乃願比此年尓至弖相叶比木工金匠神

△相併世氐皇御孫尊乃月次祭神今食祭尓持齋佉仕奉給布天社国社乃皇神等毛此日尓御祭仕奉利又榻尾大神乎招奉利令坐奉氐利

相宇豆奈比御霊幸比氐此八日乃日尓御棟上乃御祭事仕奉利氐瑞宮乃柱波太久高佉賀詞乎述倍杖波廣久厚佉稱辭乎申志氐恵良〻〻尓悦備栄延氐饒志久御祭仕奉利氐牟又此十七日止之日波吉日乃足日止卜定氐大神乃大御心毛足比尓種〻乃大幣帛乎横山乃如久置高成氐稱辭竟奉利百取乃机代物乎莫大尓備奉利氐新宮移志仕奉流可佉由乎天御量〻定奉礼留由乎藤原在親平為政乎志氐仰世被下留其王梓乃書乃便此十四日尓在都流尓合世氐此方尓毛今日乃生日波伊勢太神宮乃月次乃御祭日止△每年尓齋奉流常乃例尓在利又曆運尓毛甲子止之尓當礼留日在婆又定礼留祭式毛有我上尓源孝紀孝

△奉流可佉

卿等止心乎合世氐八百冊杵築宮尓△神財乃御劔乎藤原綱俊是俊等父子尓令造多留乎齋比初仕奉牟止為尓平譽重余利一枚乃金乎贈来礼婆御装束乃事乎毛仕奉利初倍久又十一月乃十四日尓筑紫尓坐須三前大神乃御許尓先尓齋鏡乎捧奉礼利志事乃有介留尓合世氐三枝乃三種乃神劔止瑞珠乃清佉眞玉止乎捧奉久止其行幸乃御祭仕奉利氐直尓江上善章尓令世氐令贈奉留事乎相謀礼留尓其二十四日乃日尓東路余利西海尓出立志大座坐須止告遣世多利祁礼婆此頃先其国尓到着給布倍佉程合奈利又吾我大神乃新宮造毛十一月乃申尓波成氐有祁武此月乃中尓許曽波移奉留良志其此乃事共乎兼氐今日奈毛御祭波仕奉良牟止

已久余利妻尓毛之氐其儲乎令為米子尓毛三氐其心乎令樂氐有（聞七）
都尓流京師乃方乃大礼毛、此生日乃足日乃宜日尓定礼留奈毛、靈
相倍婆合奴流神乃御心尓坐良志止、共處思倍婆甚尊久有利、此處思
倍婆奴尓奇志久有利氐、弥益尓嬉志比悦布此心乎、天地尓思足波志氐、
天社国社乃皇神等乃御名乎思出奉利氐、善波志伎妻子諸共尓、（言擧）
齋在利清在利尓持恐美恐美毛齋清米氐、捧奉流豊御饌乎香美志伎
大炊乃多米都物止聞食氐、餅飯乃鏡美麗志伎心乎持氐料理
奉礼流御贄波更奈利、種々乃味物乎備奉利、心足比尓奉上流、宇豆
乃大幣帛乎皇神等乃御心毛平介久安介久聞食氐、吾我大神乃
大宮柱廣知立氐、高天原尓千木高知氐、御屋作利仕奉利鎮

（立端方）
米仕奉流賀詞乎白佐久、天乃御柱国乃御柱止堅立流殿乃柱
波、大神乃御心乃鎮米奈利、天雲乃八重雲成志氐横多波礼流棟梁波、
大神乃御心乃平在奈利、大神乃敷坐須大宮處尓立並布、其枝
社波大神乃御心乃林奈利、内重外重乃園麻理豆久志、地下波磐根
国良尓加、地上尓波瑞枝刺交比、立覆倍留波、（布柱乃大樹青雲乃向伏我如紋廣々利都）大神乃御心乃齊比奈利、
築垣土垣八重乃組垣波、大神乃御心乃固米奈利、内尓波於菁流
御門外尓波於不菁流御門乃柱乎、上津石根尓蹈堅米、下津石
根尓蹈凝須事波、大神乃御心乃定理奈利、上波天上乎照志下
波国土尓耀夜介流、黄金乃御金物波、大神乃御心乃宜伎奈利、（善志）眞
木折久檜皮乃御草菁乎、御冨乃餘利止菁足志氐、四方尓出多留

波大神乃御蔭乃遍伎止御心乃廣伎利余幕乃御綱乎引渡志弖大
神乃御心毛長伎冬夜乃御空乎見礼婆月星乃光毛清久亮介伎
尓若菰乎假乃御在所余利天地尓足志照志弖遷幸行弖此新殿
乎天地止日月止共尓常宮止鎮利定利大座坐弖常毛仕奉
流皇神等乃御心尓令違給波受天地乃底際乃内尓満足波世流
清伎神正伎神乃御霊乎(乃)(御)吾霊止睦霊合世弖天地尓思足波須
思兼乃智慮深久令在給比弖今余利生涯乃業止説明米牟神代乃古
事乎弥々益々尓悟利究米弖皇神等乃御為尓皇御孫尊乃御
為尓高伎貴伎功乎令立給比皇御孫尊乃御楯止為弖此仕
奉流此比比羅木乃八尋桙根掩牟事無久貫伎弖天地尓至礼留

△鳴神乃遠音尓
聞慕心有志、

言乎毛立都弖可伎時止加毛此頃薩摩乃中将家尓秘置流々建武五
年乃本止云弖天下尓又比類無志止云布日本書紀乎(乃善本)其家従
岩下　相良余利令見弖大奈流疑比乎開伎天下乃惑比乎可
解伎時乎令得給開奈毛流皇神等乃御命止皇御孫尊乃大御息
賜止慎美受賜波利忌美受賜利弖弥高尓弥廣尓常毛仕奉流此
日本書紀傳波著述波志勉結利弖皇神等乃御霊尓献奉良武皇御
孫尊乃大朝廷尓波御食津國日々乃御調止一日一夜毛怠事
無久休息万布事無久弥栄尓栄仕奉牟止大夫乃大夫健雄乃利
心乎皇神等乃引起志弖武久雄々志久令勇給布物尓在良志止吾
我大神乃御心毛平介久安介久此新宮尓鎮利定利給布此今日

乃生日乃足日尓皇神等乃御霊賜利氐己我心毛鎮利定万流此悦比乎皇神等尓毛相宇豆比奈給比相穴比奈給比相助給比相幸給比氐掛麻久毛恐伎皇大御国乎志氐外国乃軽慢乎不令受氐外冦乎防禦尓波鐵乃大城乃如久為氐物部乃八十乃心乎一向尓整給比背叛久狂夫乎討年事波千引乃石乃石弩以氐岩根木根打抜我如久令在給比権伏年事波比々羅木乃八尋桙乃如久持畏年事波堅室乃葛根乃如久尓一尓波世人乃心乎令安給比一尓波武士乃心乎姿令堅給比氐此年尓迫利氐騒米久天下乃人乃惱乎治給比静給比氐掛麻久毛恐伎明御神乃大御世乎手長乃大御世止堅石尓常石尓斎比奉利伊賀志乃大御世尓

内閣文庫

幸倍奉利天下平穏久志公民令栄給閇止穂積朝臣重胤慎美敬比恐美恐美毛申賜久止白須

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan